

# 「男脳」と「女脳」

文 中野 信子

text by Nobuko Nakano

## 最初から、男と女の性格は不一致

昔から変わららず、離婚の一番の理由は「性格の不一致」です。

最初は「性格的にも合う」と思って結婚したはずが、いつの間にか「性格が合わない」となる。この間、相手の性格が変わってしまったわけではありません。自分が見誤っていただけのことです。

見誤ってしまうのは、勝手に「こうだろう」と思い込むからです。

「明日になってから伝えればいいだろう」

「この提案に喜んで同意してくれるだろう」

「AとBならBを選ぶだろう」

こうした勝手な思い込みがことごとく外れてギクシャクしていき、「この人とは合わない」となるのです。

だったら、最初から男女の性格は不一致なのだとして割り切ったほうがいいでしょう。そうすれば「外れ」はありません。

男も女も夢中になれるのは3〜4年がいいところ。やがて飽きる。

つきあいが始まった頃には、その人のことを考えるだけで脳からドーパミンが大量に放出されます。待ち合わせ

場所で相手を見つけたらドキドキ、目が合ったらドキドキ、手が触れたらドキドキ……。だから、しよっちゅうときめいていられます。

でも、3〜4年で、ドーパミンはすっかり出なくなりません。脳も疲れてしまいうんですね。

残念だけど、出ないものはしかたがない。長くつきあいを続けたかったら、ドーパミン頼みではない、現実を見据えた愛情表現をしていくしかありません。

## 「男脳」は論理脳 「女脳」は共感脳

よく、「男脳」「女脳」って言いますよね。男脳は空間把握や分析などを司る部分が発達した論理脳、女脳はコミュニケーションを重視する共感脳。もちろん、女性でも男脳が強い人もいますし、男性でも女脳が発達している人もいます。

でも、性差によって、大きな傾向はあります。

その傾向を、顧客対応に生かそうと研究している企業もあります。クレームをつけてきた顧客が男性か女性かによって、対応の仕方を変えようという

のです。

実際に、男性は的確な問題解決の提案をもらえると納得し、女性は、細かく長く話を聞いてくれる担当者を優秀だと感じたという実験結果もあり、こうした対応は功を奏する可能性大です。



「男脳 女脳 人生がときめく脳に効く言葉」セブン&アイ出版  
定価：本体600円（税別）  
セブンイレブン・セブンネットショップ  
ピングで好評発売中！

## Profile

1975年、東京都生まれ。脳科学者、医学博士、東日本国際大学教授。東京大学工学部を卒業後、東京大学大学院医学系博士課程を修了。フランス国立研究所ニューロスピンで博士研究員として2年間勤務後、現在は脳科学の研究と執筆活動を行う。著書に『脳内麻薬』『サイコパス』『メタル脳』『キレル!』など。

